



改正庭訓往來

全





庭削性来  
 有妹亦悦向貴方先祝律年  
 富貴方猶然幸甚採風物  
 初秋の御悦之次は御方  
 法難人子自遊之間は御方  
 似登書は櫻花に映蓮月影

元曜文庫

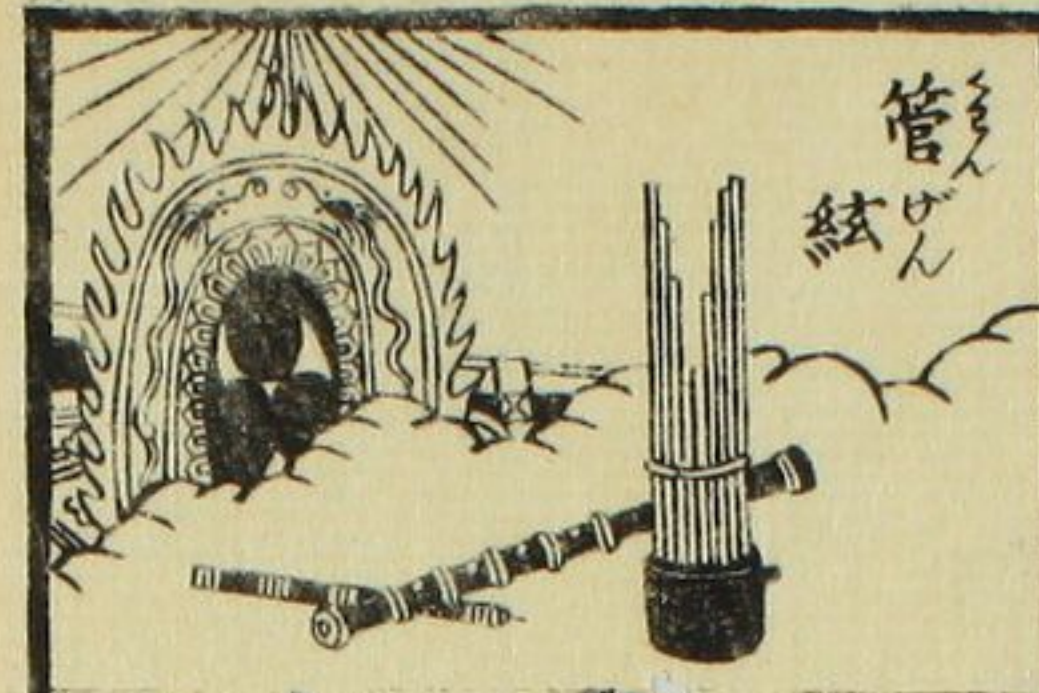








花月風月のあはれ  
おまのまゝふとあはれ  
うらやまのあはれ  
のふゆのあはれ  
あはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれ

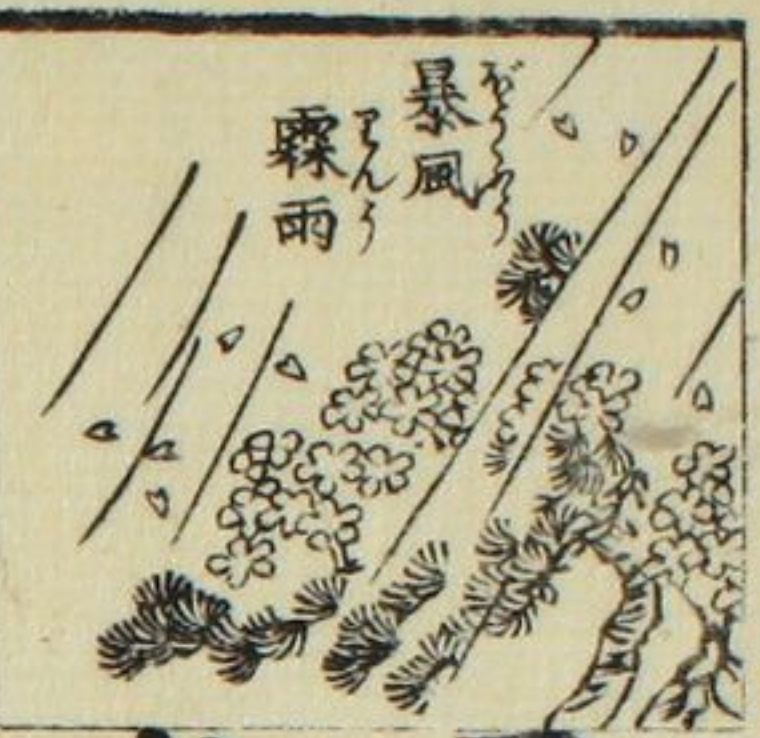


襖上 大防物敷  
燈台 美人申 燈台 美人申  
今も昔も 美人申 燈台 美人申  
花月風月 美人申 燈台 美人申  
赤松延年 美人申 燈台 美人申  
懐知 美人申 燈台 美人申

油山 美人申 燈台 美人申  
樹 美人申 燈台 美人申  
横 美人申 燈台 美人申  
と 美人申 燈台 美人申  
今 美人申 燈台 美人申  
あ 美人申 燈台 美人申  
あ 美人申 燈台 美人申  
あ 美人申 燈台 美人申  
あ 美人申 燈台 美人申  
あ 美人申 燈台 美人申  
あ 美人申 燈台 美人申  
あ 美人申 燈台 美人申  
あ 美人申 燈台 美人申



襖 美人申 燈台 美人申  
燈台 美人申 燈台 美人申  
今も昔も 美人申 燈台 美人申  
花月風月 美人申 燈台 美人申  
赤松延年 美人申 燈台 美人申  
懐知 美人申 燈台 美人申



人天長壽神余の  
 後つ不柿の本ある  
 て村本を氏とす  
 妻紀ふ言十人  
 の三目あき着和  
 也毎月十日  
 ありま〇赤人山  
 の密標赤人仁天  
 の後り上修山  
 の人が一ふ廊あり



折句  
 形か  
 か  
 ありま〇赤人山  
 の密標赤人仁天  
 の後り上修山  
 の人が一ふ廊あり

折句  
 形か  
 か  
 ありま〇赤人山  
 の密標赤人仁天  
 の後り上修山  
 の人が一ふ廊あり

高流父言為春春経三侍徳額  
 冬借頗様獲似因常公純  
 徳の言も和叙今も然指後自  
 聖得様春秋好財賦和以女愛未  
 練圓内産生之及果面左取有  
 困老也此流以和叙和春古私

春山不違毛春也之様之  
 二月廿一日 監物五源  
 律上彈心忠教 以海平  
 祝美枝有金也路多向和様和  
 廣省道旨重五也和深基無意  
 月也可有陰限里今春春様額



旋頭

香冠 上十寸すくすく  
あふらふすくすく  
せらもるすくすく

藤のくまのり  
藤のくまのり  
藤のくまのり

釣着指遠之乗以紅林妙庄盛  
靴之玉倚然沈阿野全濛亂  
他若其以遠沙法乘乘心盛  
中厨板版指遠之岸深沙法念  
下自極極下之文書海信極極  
其其進也管隨其遠用極為

傍題



花月 花月  
花月 花月  
花月 花月

お紙のあつたを  
お紙のあつたを  
お紙のあつたを

罪科の民波進乗各上乗極極  
着指山皇乘清村駛迫地勢  
乘有直用他他打者養人宗  
後後極極用各役者各去民役  
可降國博井溝道個事以他物養  
除指極極用各役者各去民役







佃作必天女の田用  
 石と不逆作を降き  
 田をえん八松田を  
 多き様三農耕を  
 農具を倍様  
 様耕他一石  
 作まの収泰く  
 小の人とを  
 水



自給は深至五福  
 一石和名砂小  
 死の島種  
 有り日本  
 本年  
 秋  
 相富  
 本社

都信河内後後後見  
 其云秀東南由奥通  
 後同下築内築  
 併様内築  
 保堅隨方自  
 相様築堅  
 三様以清

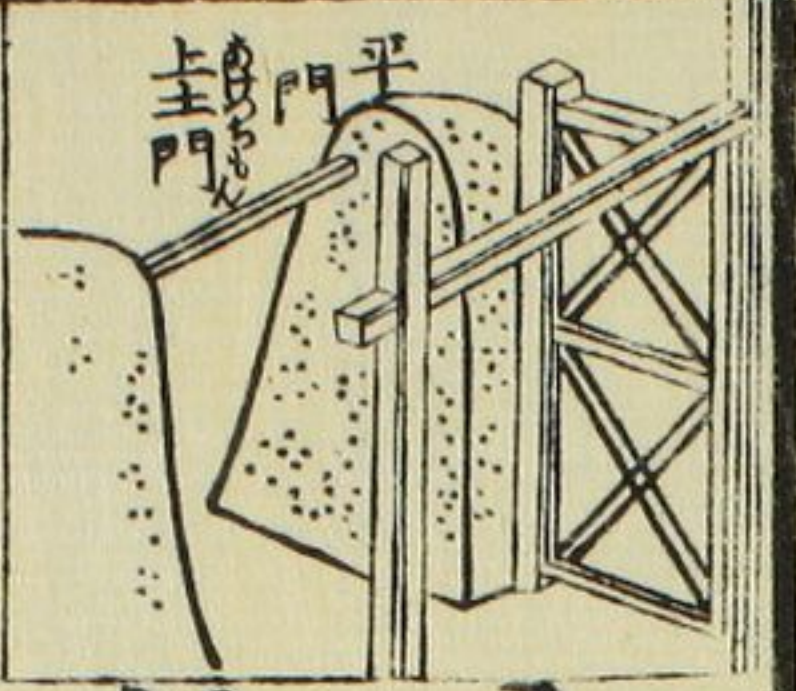
菴室体  
 五  
 密竹  
 下條  
 之有  
 正月七日  
 玄蕃元平



西の期 西の期  
 畑の原もまきとふふ人 畑の原もまきとふふ人  
 父田のあき地 父田のあき地  
 平のけ 平のけ  
 一年前の 一年前の

御政所敷

御政所敷 具長御新御身存  
 御政所敷 具長御新御身存  
 御政所敷 具長御新御身存  
 御政所敷 具長御新御身存  
 御政所敷 具長御新御身存  
 御政所敷 具長御新御身存  
 御政所敷 具長御新御身存



主門 主門  
 平門 平門  
 一年前の 一年前の

御政所敷 具長御新御身存  
 御政所敷 具長御新御身存  
 御政所敷 具長御新御身存  
 御政所敷 具長御新御身存  
 御政所敷 具長御新御身存  
 御政所敷 具長御新御身存  
 御政所敷 具長御新御身存



〇此の所は...  
 〇此の所は...  
 〇此の所は...  
 〇此の所は...

曾我孫子...  
 本末...  
 柱...  
 増...  
 妻...  
 天...

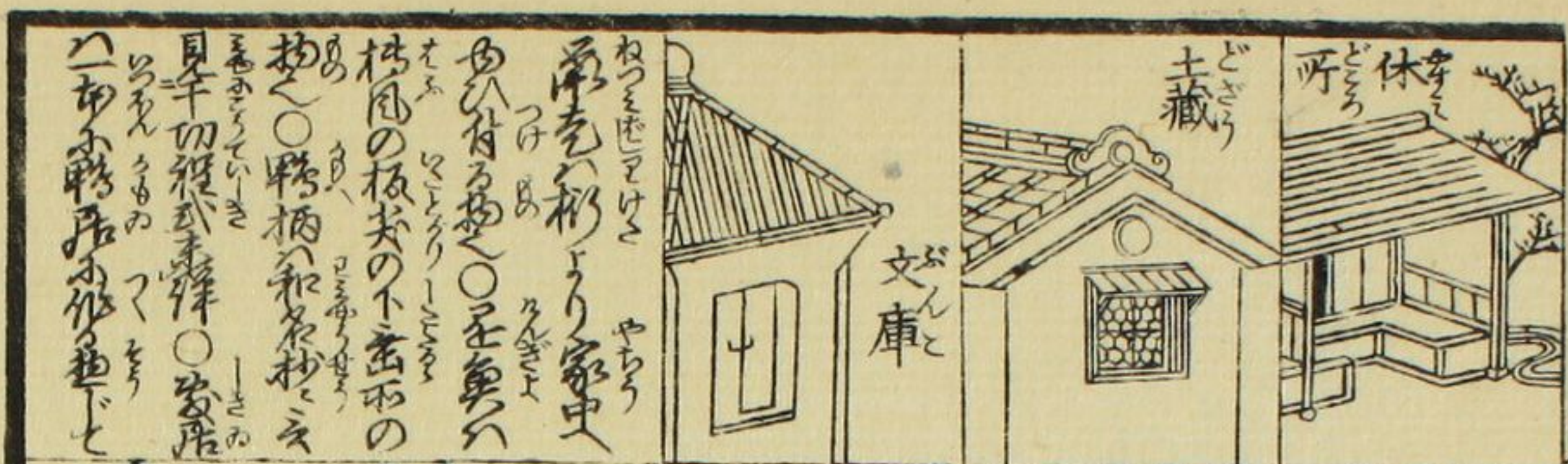


〇此の所は...  
 〇此の所は...  
 〇此の所は...  
 〇此の所は...

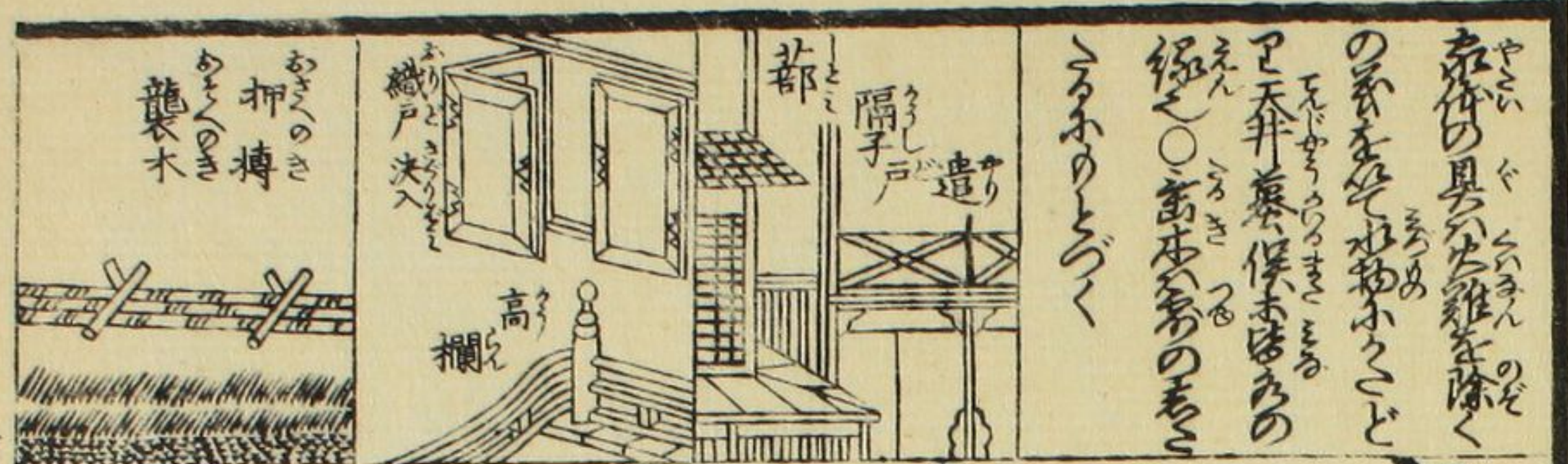
移...  
 令...  
 物...  
 本...  
 壁...  
 以...

註  
 一  
 二

註  
 一  
 二



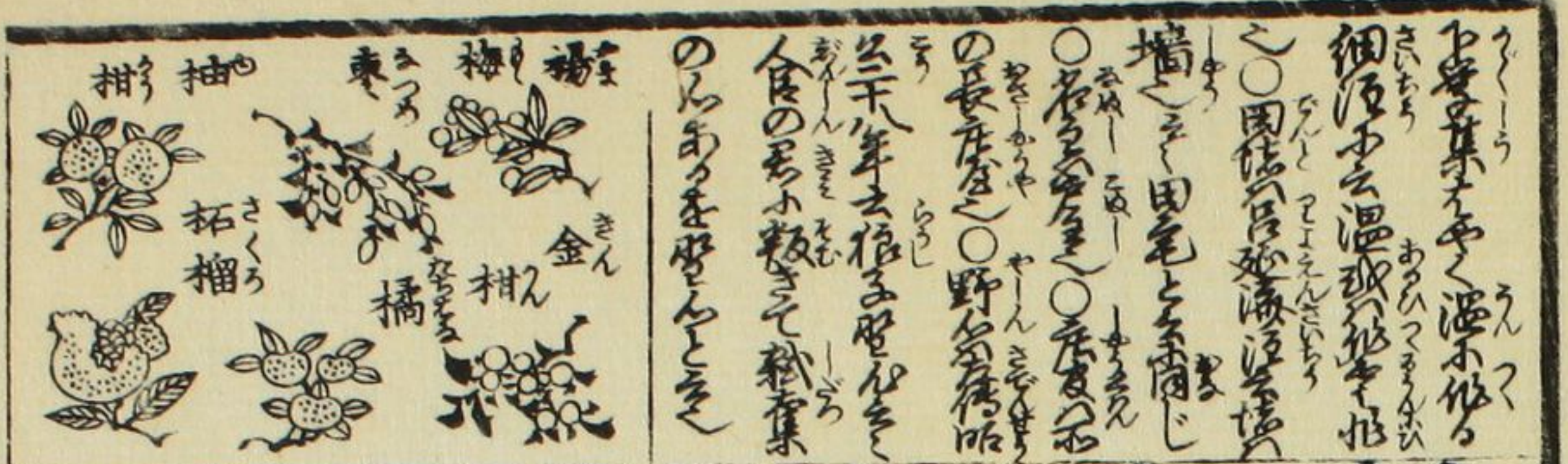
香梅梅材葉新葉推榛松栢葉  
 樹淡袖栢相子楊雲初稿金精  
 不心之否及之為殊以筆尚世見  
 吾依作精業流軍今細出田  
 儲家民食生在信來存野之間空  
 未深原貴依後至春上平令



有才技藝法者地之終之  
 二行十二首 左衛尉稿  
 進上之玉蕃元後  
 余不遠業內之回不審秀方案  
 果其採採嶺具的候齋堂  
 寔朝也悠登百姓之因東西業發



一級其甚致也其對數重然之  
 堪不致非亦以物好對其良  
 由是心存實者其強不好其化  
 像者須移修其基定必吹來  
 包其底凡出自然亦市町其仍  
 也其爲其得其爲出淨捕其對



收事定其爲其市町其通其子  
 其深其構其年其棚其布其類其對其象  
 有貴其使其松其法其對其也其格其  
 其銀其銅其細其其格其深其其後其其  
 伯其其收其士其其燒其其夫其其物其其轉其



漆樹

漆樹の皮を剥いて紙を造る

漆樹の皮を剥いて紙を造る

漆樹の皮を剥いて紙を造る

漆樹の皮を剥いて紙を造る



漁捕

師漢所府紙漢漢紙所筆  
 張襄實包私外主構取漢客  
 海來抄白粉煉橫山為帽子織  
 商人沽酒斷送古失細之源草書  
 仙壽所好塗欄所村後密爾東  
 獅子舞佛俱所現冠法懸字傾

振作の終をきこひる  
 類ふつるものをもと  
 学集集ふけり香たん  
 やるるを假治の三事  
 久そおれは自本の  
 信保てうちとてまきり



巧匠 番匠



金銀 銅工

帳白拍子遊女夜装束  
 陽所繪所佛所初維揚所  
 撲旗式符傳内傍有以洋七頑  
 學頭表及密宗寺法験の無効  
 張美儒者有聖人紅曲心經儒  
 考の清明傳字手巧秋宗速管絃



綾織  
蠶養  
市の物手を練るる大和  
屋三輪のふまをを  
秘めめ之○牧のまき  
の暗くやこもやーあふ  
たよめり○練のまきふ  
母のふまをを練るる大和  
屋三輪のふまををを  
るををををををををを  
さるるのまきふ



上より精進修業の所一念多念  
後修の不務沙汰清書草書  
書名假名體書楷字漢字達  
老安利長者森書博覧類聚  
付余尤大切修指指扇族可右  
法私以每事即清日之紙之

時繪師



時繪師  
室師  
○掛指のまきふをを  
ゆまろ○作馬天小作  
屋してまきををををを  
あり座の深油のまき  
よくまきをまきまき  
世ふ作年と移せーより  
後世ををををををを  
作系しまき○牧まき  
馬をまきのまきの

外月昔 亦末女心  
中務出反  
夜夜中宵長替身任年紙衣  
少事書意多全燈座法金高  
修考若石運送資貫津寒冬  
藝公笑易合名私潤笑公事





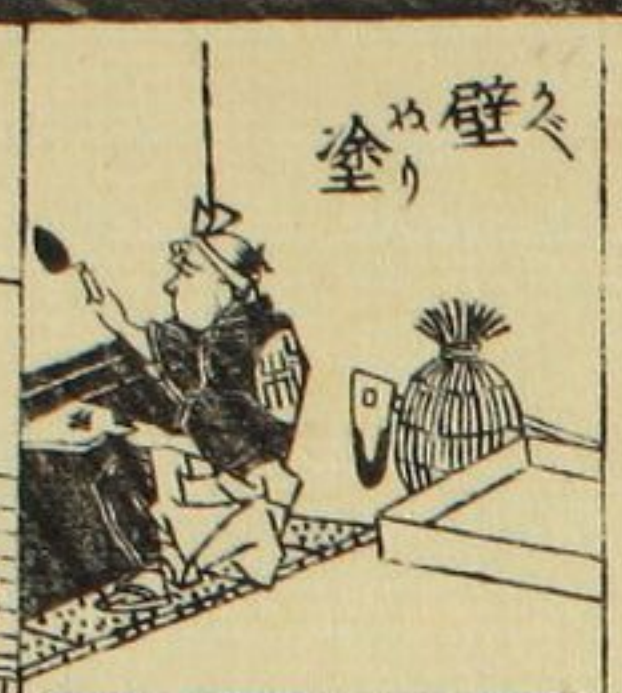
後先の儀のうち春  
 分と秋分用の茶をの  
 ちしんものなる ころをす  
 野良河橋のふ氏安  
 とのりのまふ小令衣  
 春目のみははふさか  
 金美と和史は初へ

成  
 訓

如我定以手奉時僕付月上  
 分所事業種史云道臣統景  
 町演商人種金龍梅亭厨事切  
 室兵衛船歌江河原江津深  
 坂其馬借名柄白山車借泊借  
 上渡種錢浦内其因則對至

十五

くり山の様とさうり  
 日吉と名との親世  
 多生もあてのた之本  
 兄弟の住居を後後  
 のまの○田子の法寺  
 神のあてのまほをまて  
 我々の因習を後の様  
 の○徳徳公の存へ



上之任叔載運送次余後後  
 練貫も種深物種種得字流海余  
 須為其為情字字字所伯集名流送  
 派派雲雲余自力古野判力本原  
 於於野於於於於於於於於於於  
 從從小從從從從從從從從從從

傾城の漢去一顧行人  
城を以て顧望する  
傾城の名は下りて  
自らも佳物多  
久物多らるる  
森の中の  
ともを櫛ひ抜の深沙と  
いふ多女  
水手小  
甘駕帽を  
存とをいふ  
の根元  
妻花  
とて二人の  
トめけるといふ



傾城  
白拍子  
遊女  
傾城の漢去一顧行人  
城を以て顧望する  
傾城の名は下りて  
自らも佳物多  
久物多らるる  
森の中の  
ともを櫛ひ抜の深沙と  
いふ多女  
水手小  
甘駕帽を  
存とをいふ  
の根元  
妻花  
とて二人の  
トめけるといふ

頭布束山雲雨忘天晴外  
後精好養治上名虎張生  
先陣惟上野綿上夜難武  
透骨待舞切付倭敵  
因權儀播磨鴉志傷秀  
斐助長出奥劍金侍津都  
遊精好養治上名虎張生  
先陣惟上野綿上夜難武  
透骨待舞切付倭敵  
因權儀播磨鴉志傷秀  
斐助長出奥劍金侍津都

遊女は海のとまり  
のつらみ  
浪のうみ  
傾城の漢去一顧行人  
城を以て顧望する  
傾城の名は下りて  
自らも佳物多  
久物多らるる  
森の中の  
ともを櫛ひ抜の深沙と  
いふ多女  
水手小  
甘駕帽を  
存とをいふ  
の根元  
妻花  
とて二人の  
トめけるといふ

本由<sup>よ</sup>も<sup>し</sup>む<sup>い</sup> ○秋<sup>あき</sup>の<sup>つゆ</sup>の  
 秋<sup>あき</sup>の<sup>つゆ</sup>の<sup>つゆ</sup>の<sup>つゆ</sup>の<sup>つゆ</sup>  
 秋<sup>あき</sup>の<sup>つゆ</sup>の<sup>つゆ</sup>の<sup>つゆ</sup>の<sup>つゆ</sup>  
 秋<sup>あき</sup>の<sup>つゆ</sup>の<sup>つゆ</sup>の<sup>つゆ</sup>の<sup>つゆ</sup>



佛師



縫物師

後<sup>のち</sup>の<sup>ち</sup>の<sup>ち</sup>の<sup>ち</sup>の<sup>ち</sup>  
 後<sup>のち</sup>の<sup>ち</sup>の<sup>ち</sup>の<sup>ち</sup>の<sup>ち</sup>  
 後<sup>のち</sup>の<sup>ち</sup>の<sup>ち</sup>の<sup>ち</sup>の<sup>ち</sup>  
 後<sup>のち</sup>の<sup>ち</sup>の<sup>ち</sup>の<sup>ち</sup>の<sup>ち</sup>

庚言

七

進上宋女正殿  
 月十日 中務出清原  
 降元酒儀志近奉君意  
 為常事下已神妙之  
 順普饒有甲乙令  
 備其出安後之會  
 備其出安後之會

丸<sup>まる</sup>同<sup>どう</sup>の<sup>の</sup>浦<sup>うら</sup>  
 丸<sup>まる</sup>同<sup>どう</sup>の<sup>の</sup>浦<sup>うら</sup>  
 丸<sup>まる</sup>同<sup>どう</sup>の<sup>の</sup>浦<sup>うら</sup>  
 丸<sup>まる</sup>同<sup>どう</sup>の<sup>の</sup>浦<sup>うら</sup>



良人<sup>よきひと</sup>の<sup>の</sup>浦<sup>うら</sup>の<sup>の</sup>浦<sup>うら</sup>  
 良人<sup>よきひと</sup>の<sup>の</sup>浦<sup>うら</sup>の<sup>の</sup>浦<sup>うら</sup>  
 良人<sup>よきひと</sup>の<sup>の</sup>浦<sup>うら</sup>の<sup>の</sup>浦<sup>うら</sup>  
 良人<sup>よきひと</sup>の<sup>の</sup>浦<sup>うら</sup>の<sup>の</sup>浦<sup>うら</sup>



醫師の執業を許すに  
 本業の如きもの業を以て  
 依る所をわけて内膳を  
 同の位に是迄の程に  
 命し力を合せて万民の  
 め医療のそのを任せ  
 刀をさすり



或は生希本業供所財為後後紅  
 住業不従美封固重利山宮宮宮宮  
 不重の徳慕田津高難難徳源  
 後後姓後後凡後後後後後後後  
 全全運賜之公利能子金集程  
 青洋行本産具身母根盤對公谷

禪後名羽津津津津津  
 傍洋西宗朝和基基  
 法法法法法法法法法  
 仁和寺  
 眉作

子西基油瓶瓶瓶瓶瓶瓶瓶瓶瓶  
 信信信信信信信信信信信信信  
 來仁信信信信信信信信信信信  
 香拜地地地地地地地地地地地地  
 玉玉玉玉玉玉玉玉玉玉玉玉玉  
 統統統統統統統統統統統統統

針小  
路針



鞍馬  
木芽  
清

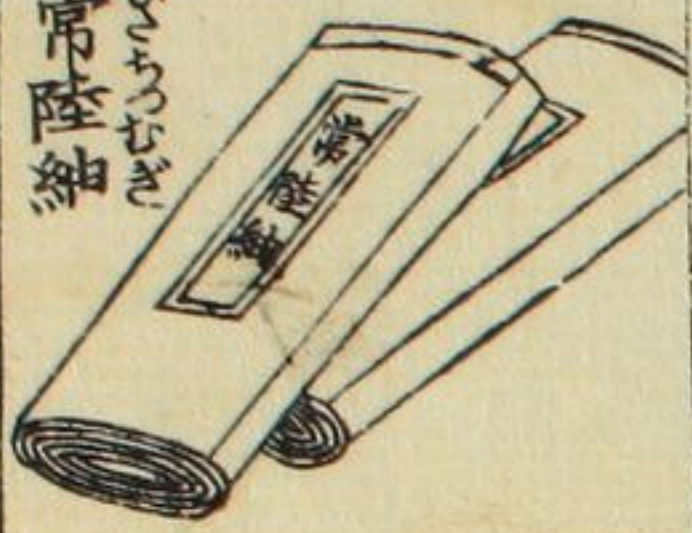


醍醐  
烏頭布



肩作りのと○肩作りの  
上の系を所あり後  
務の成敗家の衣今も  
肩の多く重く○後  
本美の多き○後  
中ハとての平を深  
止○烏頭布洗  
の倍多き○  
とての平を深  
糸或は海州○  
精細の糸○  
糸の多き○  
糸の多き○

唐紙



肩作りのと○肩作りの  
上の系を所あり後  
務の成敗家の衣今も  
肩の多く重く○後  
本美の多き○後  
中ハとての平を深  
止○烏頭布洗  
の倍多き○  
とての平を深  
糸或は海州○  
精細の糸○  
糸の多き○  
糸の多き○

舟舟 左京進平

進上 藏人將監教

不事 秀方 處事 重臣 羽衣 家

竹 簾 簾 後 法 龍 仙 心 如 蓮

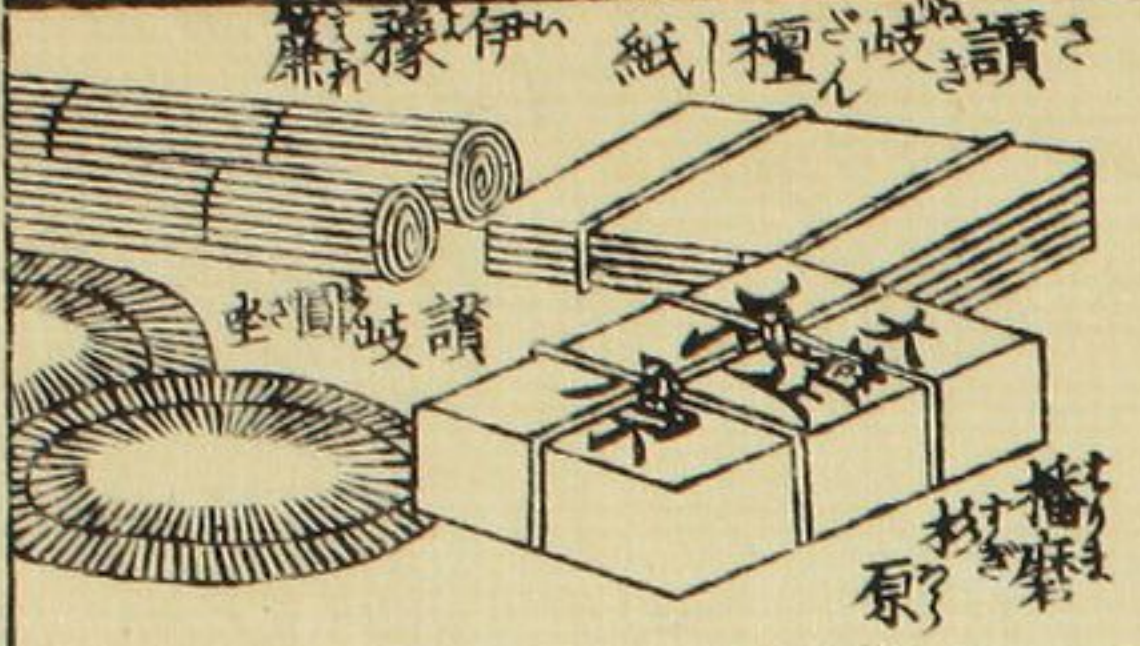
折 花 先 院 法 儀 奉 奉 奉 奉 奉 奉

備 用 具 長 尺 尺 尺 尺 尺 尺 尺 尺

枕 簾 尺 尺 尺 尺 尺 尺 尺 尺  
奉 奉 奉 奉 奉 奉 奉 奉  
折 簾 簾 後 法 龍 仙 心 如 蓮  
折 花 先 院 法 儀 奉 奉 奉 奉 奉 奉  
備 用 具 長 尺 尺 尺 尺 尺 尺 尺 尺



上總  
勢切  
伊勢  
此の糸は伊勢の糸の  
つむぎなり  
伊勢の糸は伊勢の糸の  
つむぎなり  
伊勢の糸は伊勢の糸の  
つむぎなり  
伊勢の糸は伊勢の糸の  
つむぎなり



紙櫃  
讀  
此の箱は伊勢の箱の  
つむぎなり  
伊勢の箱は伊勢の箱の  
つむぎなり  
伊勢の箱は伊勢の箱の  
つむぎなり

下馬場有る余は白干箱馬元鷲楚  
刺舞控し纏精統清清不鳥不  
先平鹿平に豚家焼以結實獲  
浪様不取鳥將智徳味海風腕  
輕駕賊幸由聖堂埋蛤蜻牛雜  
水裏米背儼或元素正年以抗

不立之事は若法其勢難修之  
有月日 本年初臨天  
左系之主友 涉五車  
世間も信違物老年定密難  
淡淡不意と書持世と所屬靜  
僅々方為稿や道途歎々在系不

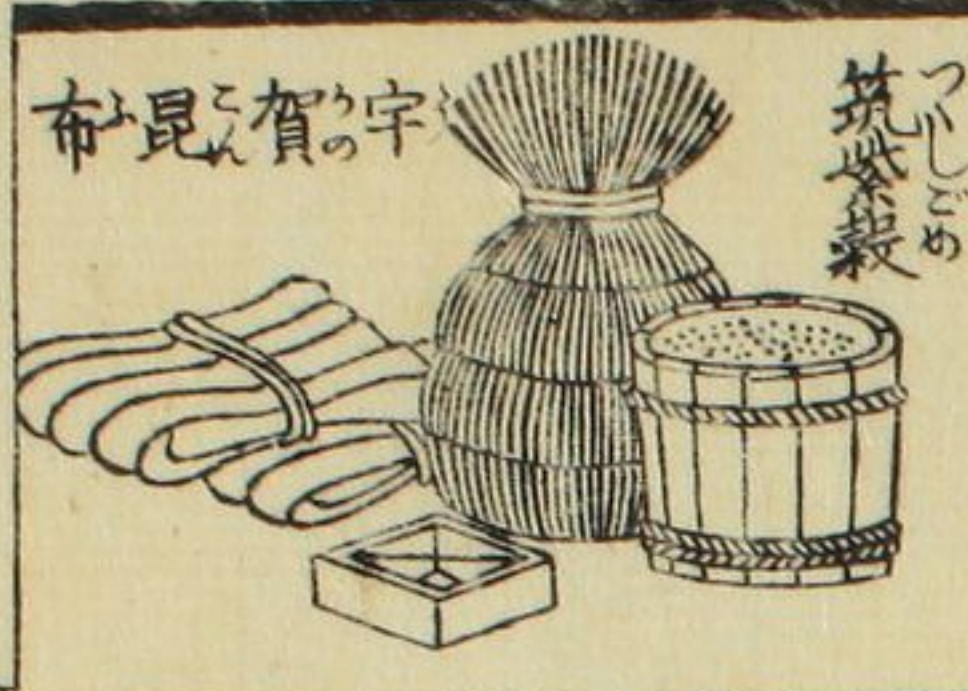
軍府... (small vertical text at the top right of the page)

之刑謀殺及... 凶洗且集... 奔逃賊復... 因山嶽海... 横白木... 徑先制敵... 討人將軍...

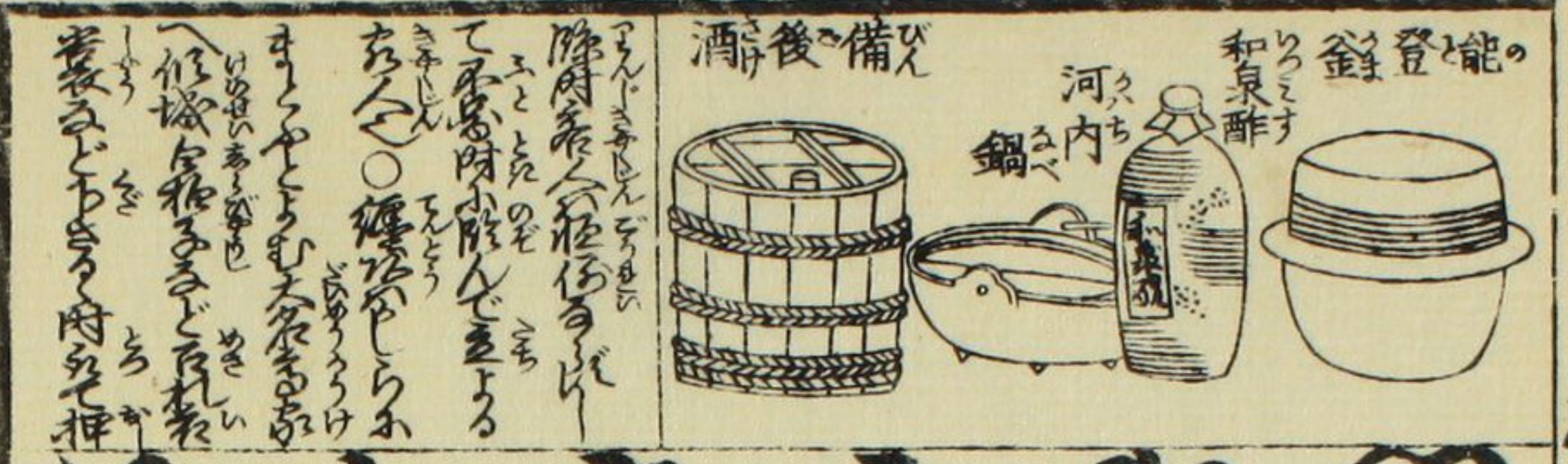


鐵 備中 奧州 金

因能為... 梢遠... 近首... 具... 宿... 不...



筑紫穀  
 和泉酢  
 宇賀の布  
 備後酒  
 河内鍋  
 備後酒  
 河内鍋  
 和泉酢



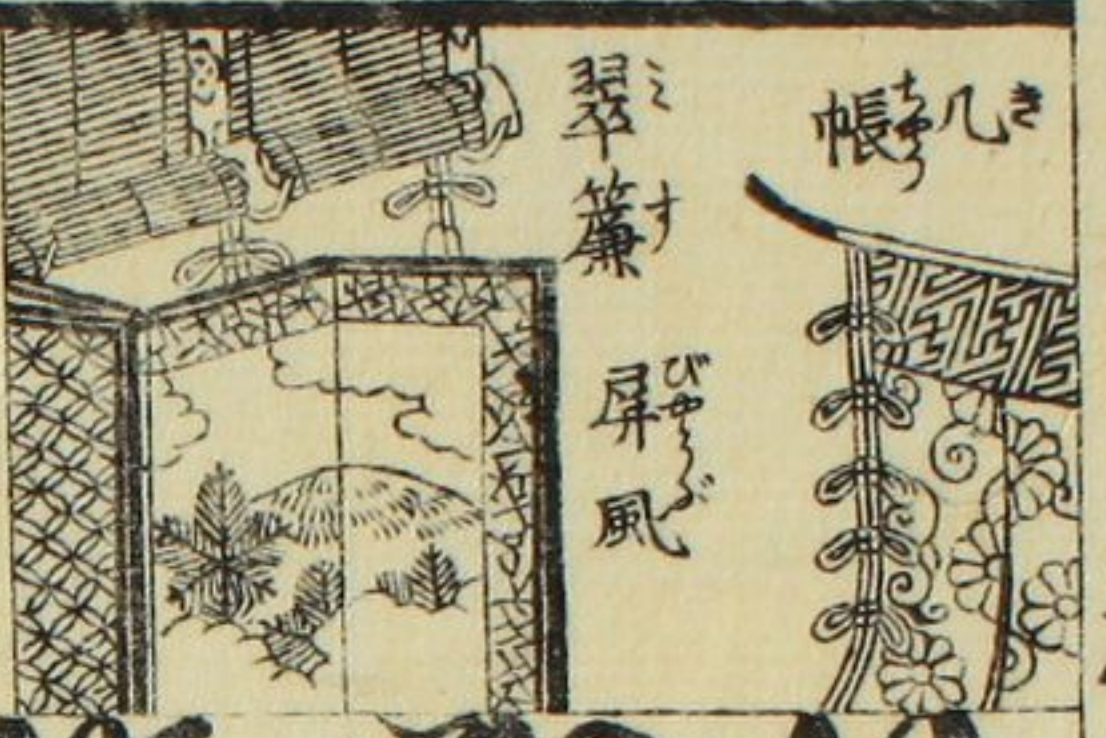
備後酒  
 河内鍋  
 和泉酢  
 備後酒  
 河内鍋  
 和泉酢

六月七日 勅令  
 後上 後者 奉 奉 奉 奉  
 奉 奉 奉 奉 奉 奉 奉 奉  
 奉 奉 奉 奉 奉 奉 奉 奉

備後酒  
 河内鍋  
 和泉酢  
 備後酒  
 河内鍋  
 和泉酢

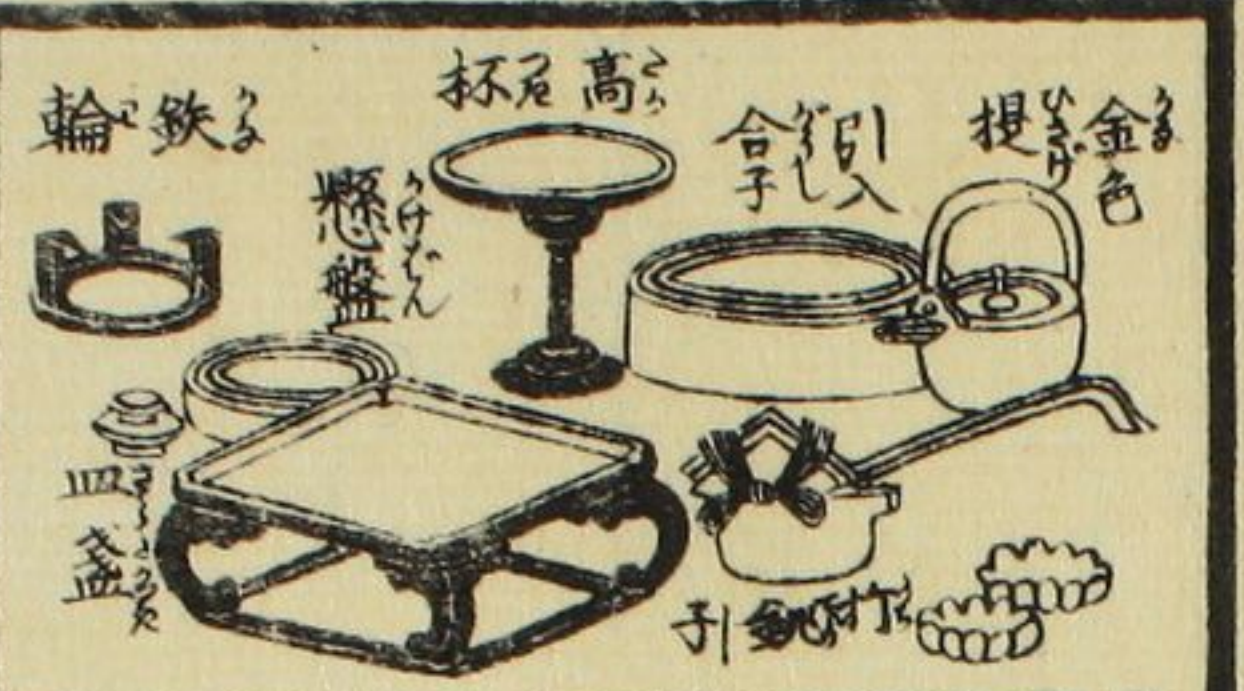


三言



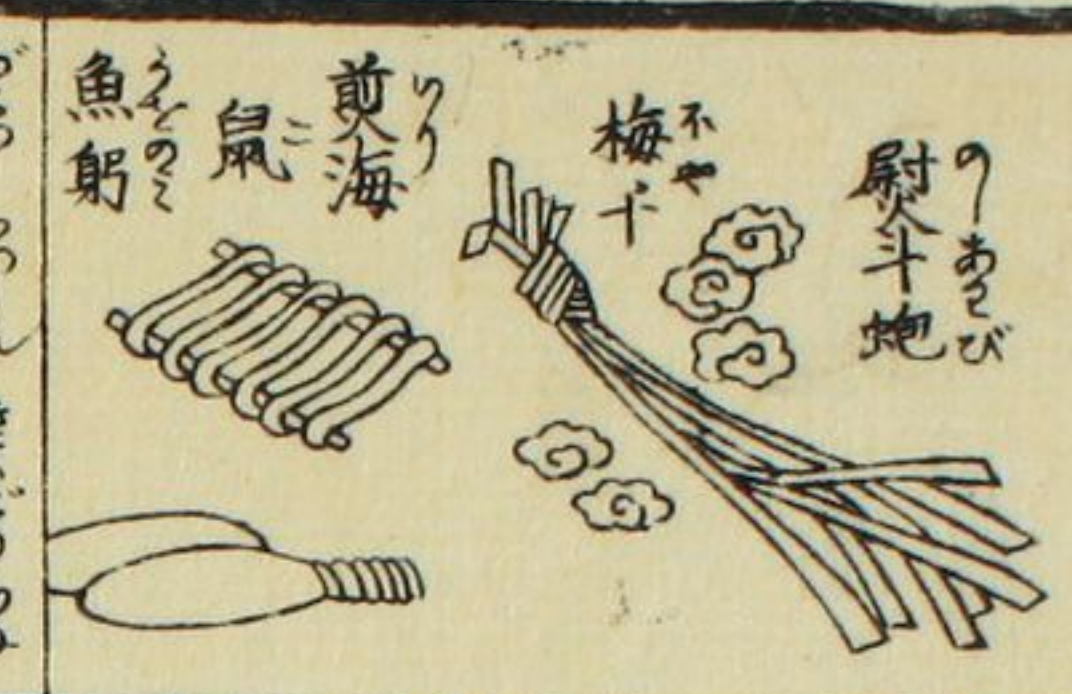
帳子  
翠簾  
屏風  
の備を地味なる之を  
の者之○油燈の  
の居のふりしふたを  
のあり

公亦相討其若海邊終收杯  
 戰場遠望發至志豪壯亦其是  
 德有院堂事公志然武公亦有官  
 將妻老壯念其由事在將軍別對定  
 沙袋軍備軍軍觀信保飛  
 用海軍將軍家計策非概放



金色提  
合銀  
高杯  
懸盤  
鉄輪  
打洗を洗す  
杯を洗す  
一切の器を洗す  
代古飲酒を分る  
さうき油を分る  
つぎとまら  
保あふみ

仍侍而奉事多難操世直志衝  
 先知也之第出沙汰其及遠事其乃  
 後昆小能智因後中族其休之志  
 陰德德類也其得因之旨其宿沈  
 常其極捕也凡唐公捕老軍忠  
 專一軍旅之其為能之其用之次



射斗地  
梅干  
煎海  
魚射  
魚

武具事難見有以崇崇前未後  
外不國其系鑲亦華貴系腰衣  
後後靈賦全自胸及後後  
俱不後後為因是曰龍胸正方中  
各一勿國和和女在善勝為因是  
後後後後後後後後後後後後後  
後後後後後後後後後後後後後



すりやゆり  
下つり  
牛を割る  
すりやゆり  
下つり  
牛を割る

白柄長方田子併馬之連後華先  
為頭空那指深系鑲亦華貴系腰衣  
果表表如強者以年大分日公在後後  
相具腰而因以公在後後後後後  
白果如法如如如如如如如如如如  
失法如如如如如如如如如如如如



山鳥  
 鳥賊  
 水魚  
 雜交  
 喉  
 鳥賊  
 水魚  
 雜交  
 喉  
 鳥賊  
 水魚  
 雜交  
 喉

鳥賊  
 水魚  
 雜交  
 喉  
 鳥賊  
 水魚  
 雜交  
 喉  
 鳥賊  
 水魚  
 雜交  
 喉  
 鳥賊  
 水魚  
 雜交  
 喉

棋  
 鹿  
 駝  
 蘇  
 摩  
 障  
 鄒  
 卓  
 知  
 後  
 恭

障  
 鄒  
 卓  
 知  
 後  
 恭

言

十五

劫奪の道は、秘の山に  
秘をいふも、あはれをとり  
秘をいふも、道は、秘の  
秘をいふも、あはれをとり  
秘をいふも、道は、秘の  
秘をいふも、あはれをとり  
秘をいふも、道は、秘の  
秘をいふも、あはれをとり

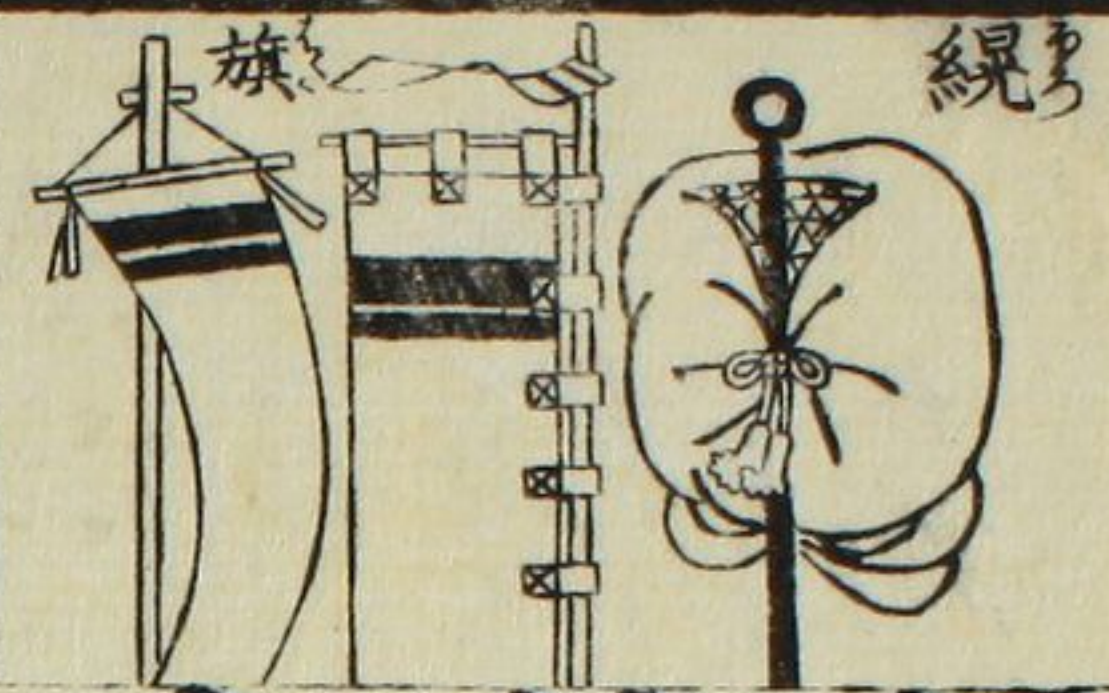
強盗  
盗



根柢の根のものをあ  
ら、とらふと、あはれをとり  
ら、とらふと、あはれをとり  
ら、とらふと、あはれをとり  
ら、とらふと、あはれをとり  
ら、とらふと、あはれをとり  
ら、とらふと、あはれをとり  
ら、とらふと、あはれをとり

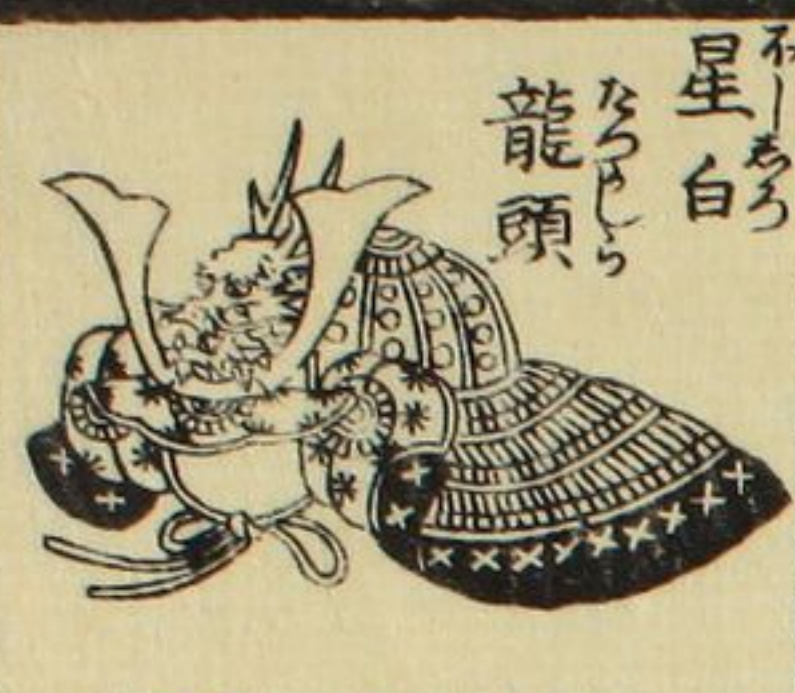
新編新考具良の役役を新大  
野矢野矢野矢野矢野矢野矢野  
六月十日 兵部大臣  
後上 勅解法法法法法法法法  
兵部大臣 兵部大臣 兵部大臣  
兵部大臣 兵部大臣 兵部大臣  
兵部大臣 兵部大臣 兵部大臣  
兵部大臣 兵部大臣 兵部大臣

本朝の以て、眼を指して、自は、新  
編新考具良の役役を新大  
野矢野矢野矢野矢野矢野矢野  
六月十日 兵部大臣  
後上 勅解法法法法法法法法  
兵部大臣 兵部大臣 兵部大臣  
兵部大臣 兵部大臣 兵部大臣  
兵部大臣 兵部大臣 兵部大臣  
兵部大臣 兵部大臣 兵部大臣



旗 旗の形はさまざまあり  
 縄 縄は太く細くさまざまあり  
 旗の形はさまざまあり  
 縄の形はさまざまあり

綉物に雲文を添へて深紅に緋を  
 黄緑に紅を添へて青に紫を  
 紫に白を添へて赤に黒を  
 赤に白を添へて白に黒を  
 黒に白を添へて白に黒を  
 白に黒を添へて黒に白を



龍頭 龍頭の形はさまざまあり  
 星 星の形はさまざまあり  
 龍頭の形はさまざまあり  
 星の形はさまざまあり

七月 七月は左衛門尉在任  
 進上 進上は内少輔殿  
 白紙 白紙は度々用ひ及故書非  
 紙 紙は度々用ひ及故書非  
 筆 筆は度々用ひ及故書非  
 墨 墨は度々用ひ及故書非



追代 賊之  
 漢の世ふたのまをたい  
 らげんあ種武を  
 とは福地ふまふ藤  
 らち扇か加國の回と

奥龍白波裏初重以浪之介  
 房其老室中令長領事總務  
 精好活軍之法服難來霧  
 尾能武後統鋒揚技珍公  
 香爐水精也繁集今殊情  
 段鼻高勢壯壯虎梅竹經


十一年の...  
 ありの...  
 つく...  
 なる...  
 漢の...  
 長...  
 五...  
 在...  
 一...  
 二...  
 三...  
 四...  
 五...

横津集集和取書精起万  
 尺公般般般般般般般般  
 校乃中用楊事後本且其  
 朱心生法不定之云存  
 七月日 紀  
 陸之大藏正殿

此の書は... 漢書... 文法...  
 漢書... 文法... 漢書... 文法...  
 漢書... 文法... 漢書... 文法...

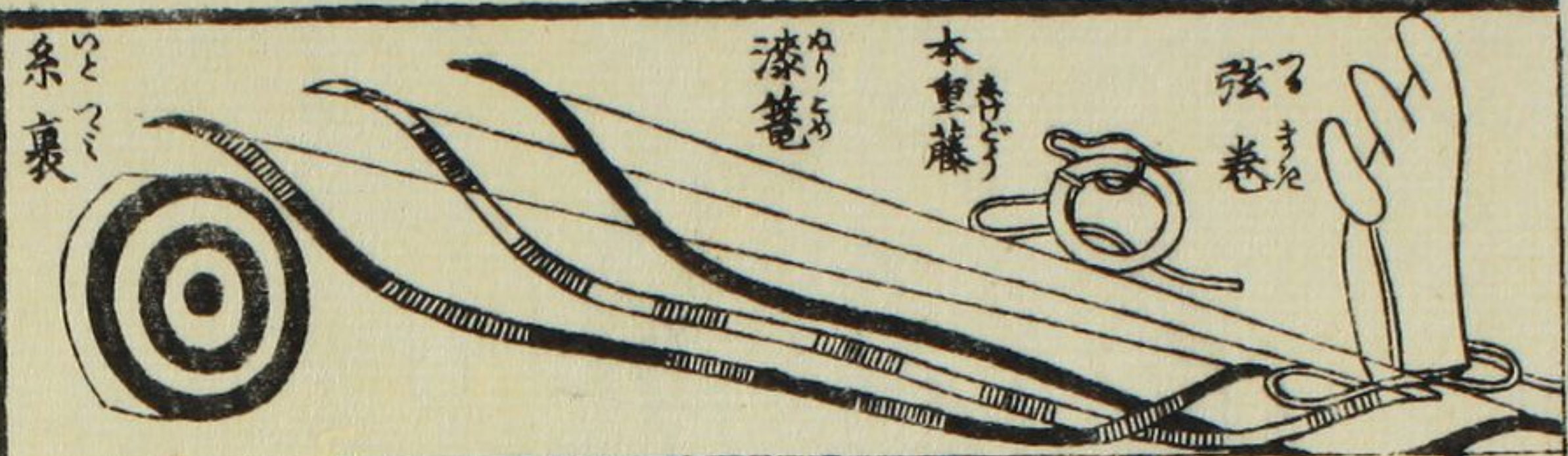
一者漢の... 漢書... 文法...  
 漢書... 文法... 漢書... 文法...  
 漢書... 文法... 漢書... 文法...

石打征矢  
 鶴切符  
 書置符  
 鶴羽  
 鶴本白



漢相... 文法... 漢書... 文法...

漢書... 文法... 漢書... 文法...  
 漢書... 文法... 漢書... 文法...  
 漢書... 文法... 漢書... 文法...



法法不務親大難勢之演例和  
 成敷清例納法條表家抄毒蘇  
 儀以治院學以港雷蘇作切正  
 指佛法首紀法例洲忍目疑不  
 審事身分為為中是空手時時  
 雅辨風味時成管具是難蘇

此合やげ...  
 漆巻...  
 木重藤...  
 弦巻...  
 糸裏...

余未及爾爾老後仍而殊以之恐  
 七月晦日 加賀大塚和氣  
 禮上民部大輔殿  
 依指事常中道後略之為  
 公如苦問來致也之且其也生  
 忽海也案案致致何案也哉海





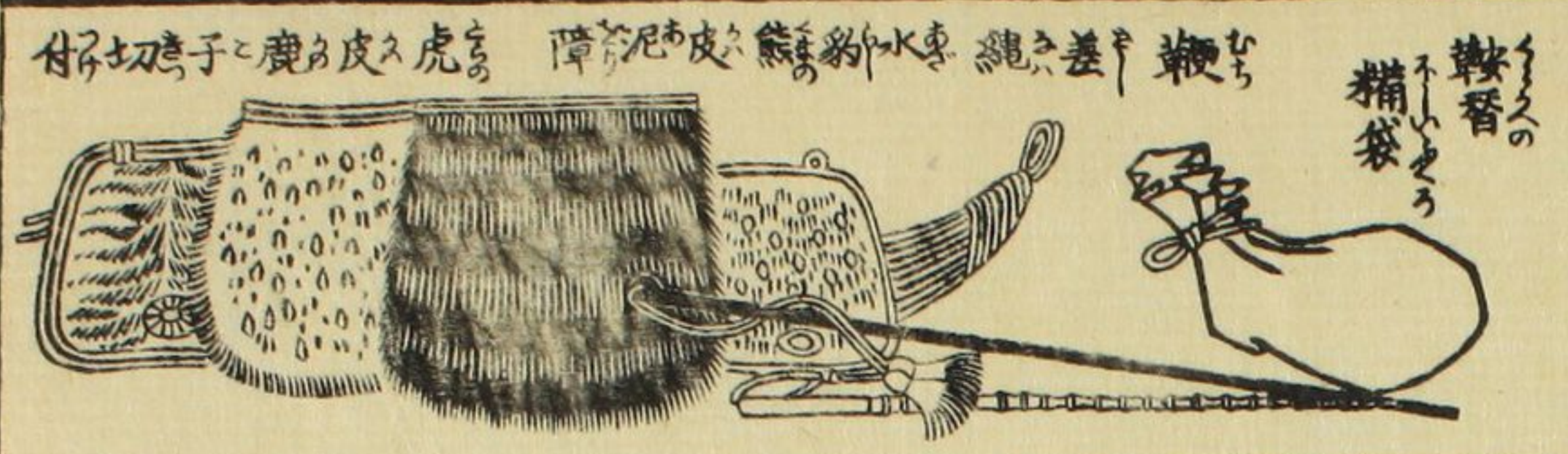


行不器之  
 白槽  
 黒漆  
 張鞍  
 去撥のそのこと  
 飯通のそのこと  
 天衣とせし  
 袋の補綴を教  
 之の補綴を教  
 之の補綴を教  
 之の補綴を教  
 之の補綴を教

庭  
言

勅使往還の儀  
 勅使往還の儀  
 勅使往還の儀  
 勅使往還の儀  
 勅使往還の儀  
 勅使往還の儀  
 勅使往還の儀  
 勅使往還の儀  
 勅使往還の儀  
 勅使往還の儀

三



鞍  
 韃子  
 韃子  
 韃子  
 韃子  
 韃子  
 韃子  
 韃子  
 韃子  
 韃子

取捨事老  
 取捨事老  
 取捨事老  
 取捨事老  
 取捨事老  
 取捨事老  
 取捨事老  
 取捨事老  
 取捨事老  
 取捨事老

庭  
言

三







具懸下垂垂之狀然念始百園也  
 長情美氣遠遠生滋味之公等車  
 公卿一人騎馬般坐之香馳出西雲  
 有物羅羅天深氣以於將象水  
 最從世之深衣而思其初衣景觀  
 多種肉以糕律自家之南茶

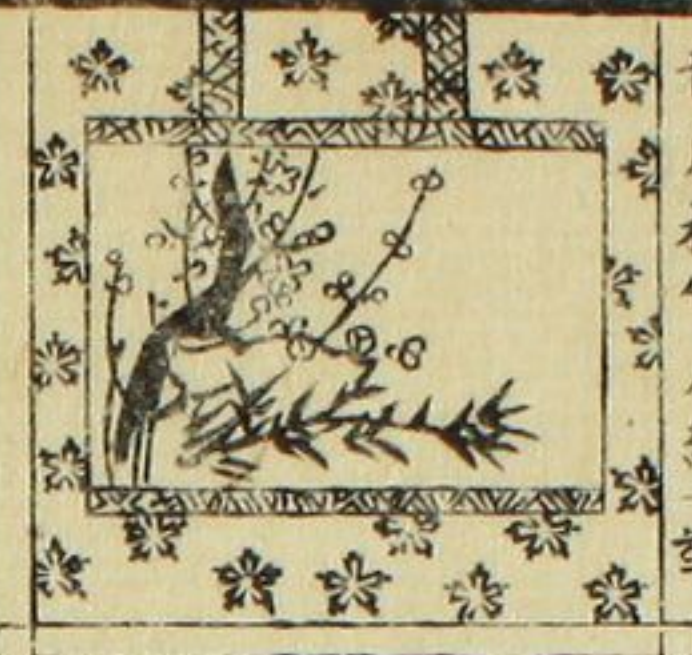
〇本意以如名之  
 〇法彼のよふもの  
 〇法之屋之下信の  
 〇法之屋の下の信の  
 〇法之屋の下の信の  
 〇法之屋の下の信の

〇本意以如名之  
 〇法彼のよふもの  
 〇法之屋の下信の  
 〇法之屋の下の信の  
 〇法之屋の下の信の  
 〇法之屋の下の信の



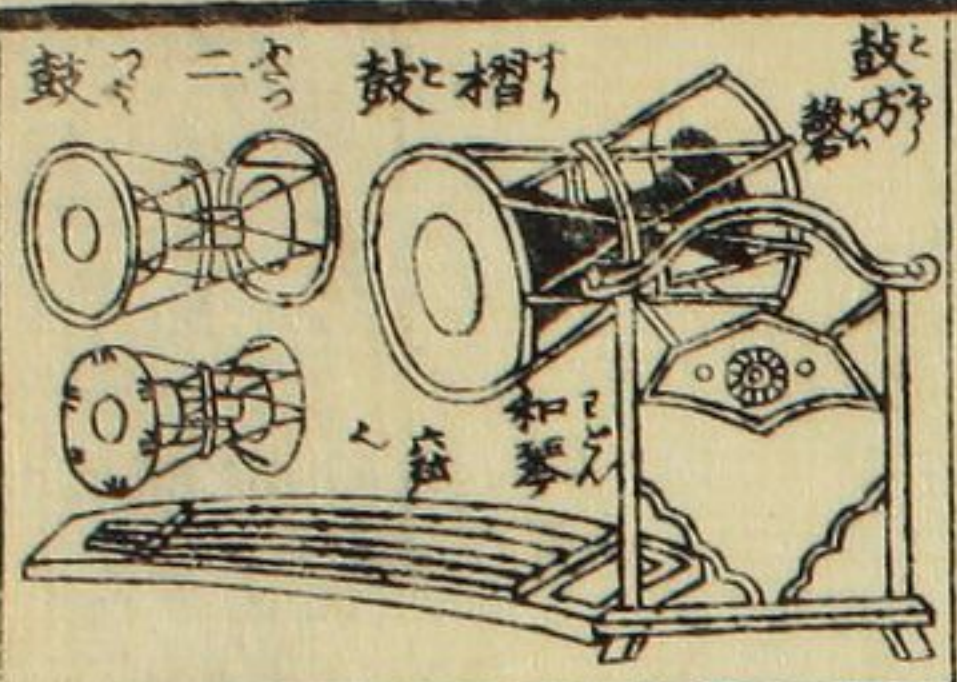


龍虎梅竹唐繪一對



まうらんげん  
年令今系物白梅氏の  
りわんげんをして年令  
を他しむと云○  
まうらんげん今日本にて  
樂あまらるる○

沙汰様後書云々奉仕書云々  
相傳後書私刻念悔云々奉  
敬夜書青月位之真書後悔云々  
仲秋書首終の筆事云々  
拜儀書身長老位中尚書書  
夜夜書其位共神時法書云々



さうの書と云○  
鼓の書と云○  
方鼓の書と云○  
漢の書と云○  
各書と云○  
附書と云○  
鼓の書と云○  
鼓の書と云○

夫は公身事力者駕馬車山山有儀  
奉書と云○  
漢書と云○  
附書と云○  
鼓の書と云○  
鼓の書と云○  
鼓の書と云○  
鼓の書と云○  
鼓の書と云○



將軍家若宮御奉  
 諸供奉  
 後陣  
 武士

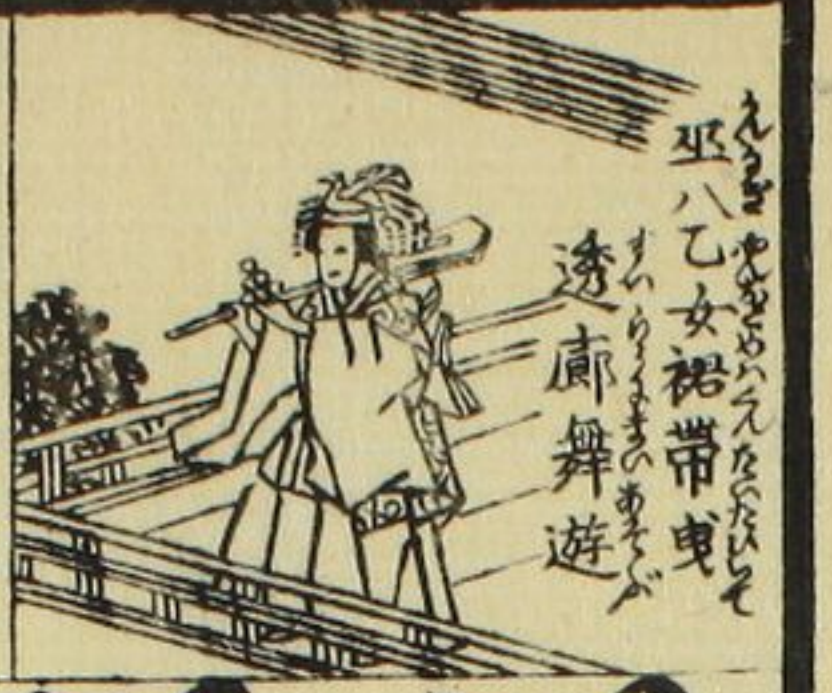
指寫法惟精熟叙者後續進徒王  
 勤必親法清唱海陀羅尼念彌志云  
 稱名念佛九旬依此上甚相發後  
 律法教以余抄考公傍依卷幾人  
 極心者但佛初旋安初初釋為宗  
 團是狂想實為標此成區假現仍

進上侍者沙中  
 沙孤  
 仁者存願究今念慈衆覺悟



〇依奉目紀...  
 〇依奉目紀...  
 〇依奉目紀...  
 〇依奉目紀...  
 〇依奉目紀...  
 〇依奉目紀...  
 〇依奉目紀...  
 〇依奉目紀...  
 〇依奉目紀...  
 〇依奉目紀...

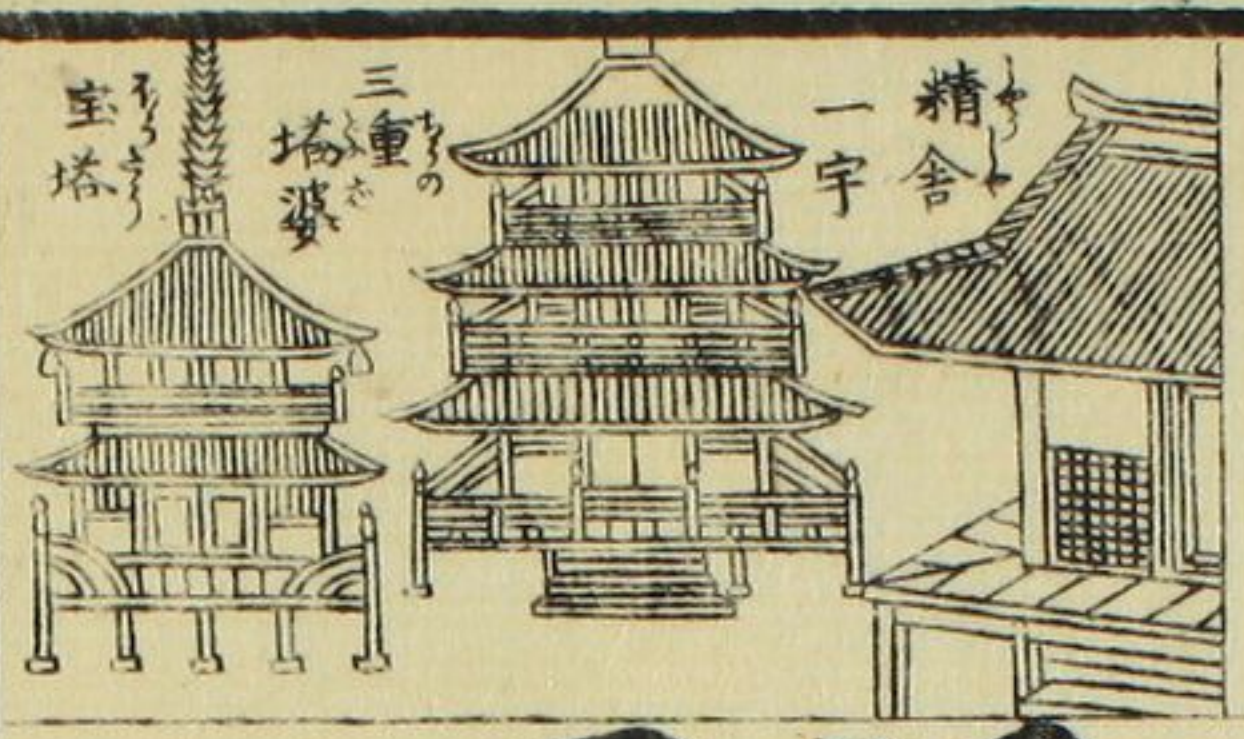
業障障...  
 中...  
 長...  
 像...  
 依...  
 低...



透廊舞遊  
 〇依奉目紀...  
 〇依奉目紀...  
 〇依奉目紀...  
 〇依奉目紀...  
 〇依奉目紀...  
 〇依奉目紀...  
 〇依奉目紀...  
 〇依奉目紀...  
 〇依奉目紀...  
 〇依奉目紀...

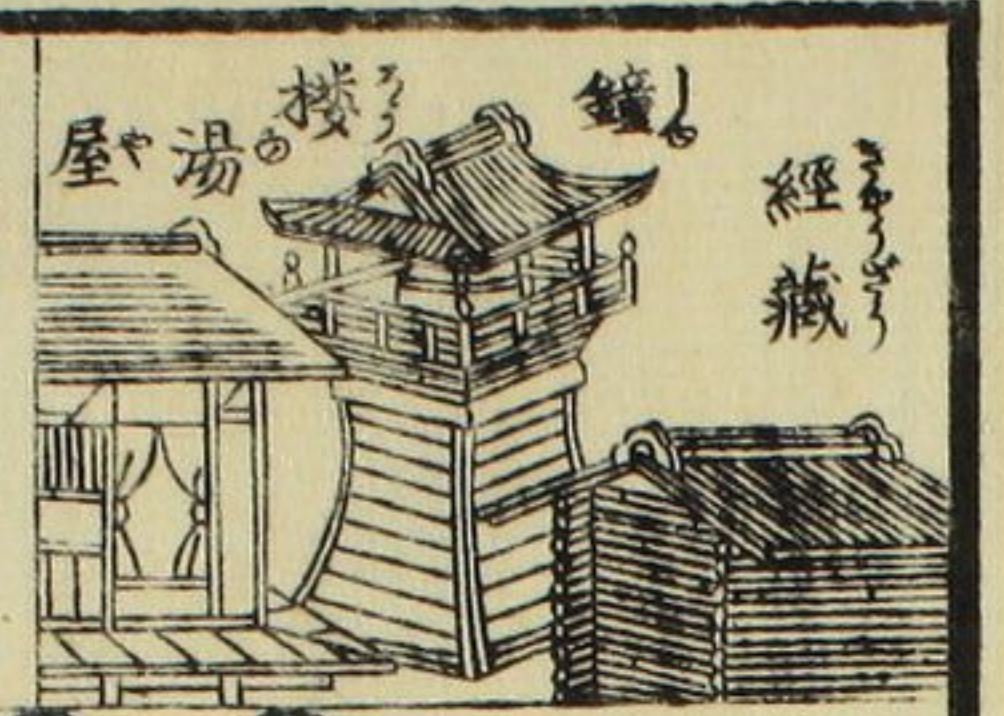
依奉目紀...  
 依奉目紀...  
 依奉目紀...  
 依奉目紀...  
 依奉目紀...  
 依奉目紀...  
 依奉目紀...  
 依奉目紀...  
 依奉目紀...  
 依奉目紀...

其の由を尋ねる所のを  
 之と稱す也○後復軒  
 文不のり言を何やと  
 よむ事之のありけり  
 何之○後復軒の  
 第一のり言を何やと  
 言ふ事之のありけり  
 金邊の神家のありけり



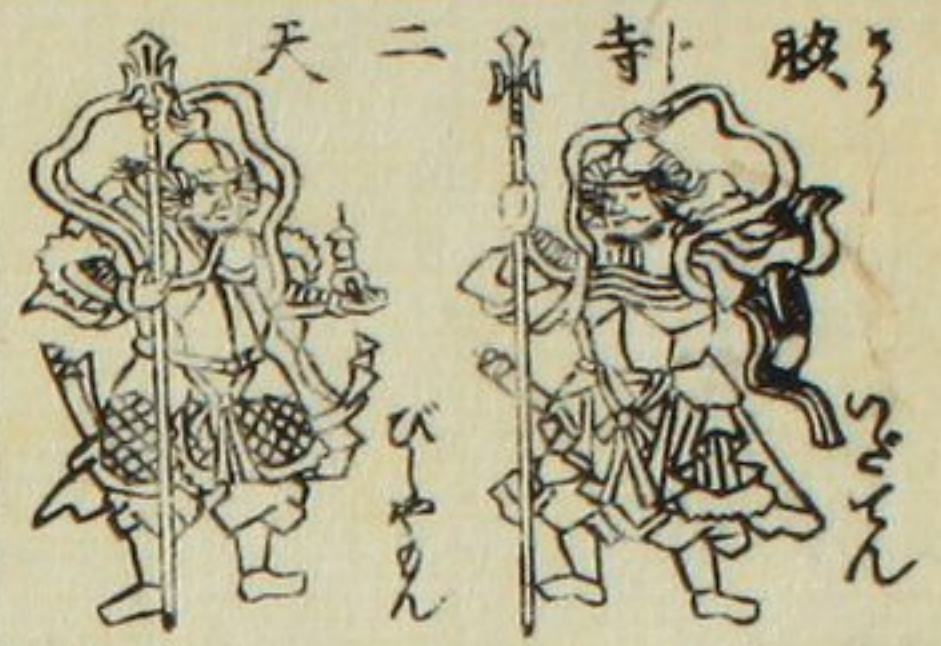
如き香煙香苑の白雲を盡し日耕  
 法燈燒香法苑香苑の白雲を盡し日耕  
 共法道之儀是を園事と云ふ其  
 個事之儀是を園事と云ふ其  
 三徳之儀是を園事と云ふ其

九月日 倚者



鐘藏  
 講堂  
 湯屋  
 鐘藏の由を尋ねる所のを  
 之と稱す也○後復軒  
 文不のり言を何やと  
 よむ事之のありけり  
 何之○後復軒の  
 第一のり言を何やと  
 言ふ事之のありけり  
 金邊の神家のありけり

平入道殿  
 院新次退院常慶之令御看  
 間其清徳其法苑香苑の白雲を盡し日耕  
 為徳法念公法苑香苑の白雲を盡し日耕  
 孫内公法苑香苑の白雲を盡し日耕  
 危後法苑香苑の白雲を盡し日耕



精舍を寺と云はれども先  
 精舎と云はれども先  
 精舎と云はれども先  
 精舎と云はれども先  
 精舎と云はれども先  
 精舎と云はれども先  
 精舎と云はれども先  
 精舎と云はれども先  
 精舎と云はれども先  
 精舎と云はれども先

佛は法を説き其の相承は信者老  
 師業中其の用は信者老  
 師業中其の用は信者老  
 師業中其の用は信者老  
 師業中其の用は信者老  
 師業中其の用は信者老  
 師業中其の用は信者老  
 師業中其の用は信者老  
 師業中其の用は信者老  
 師業中其の用は信者老  
 師業中其の用は信者老

法服 座高登 法服 座高登  
 法服 座高登 法服 座高登  
 法服 座高登 法服 座高登  
 法服 座高登 法服 座高登  
 法服 座高登 法服 座高登  
 法服 座高登 法服 座高登  
 法服 座高登 法服 座高登  
 法服 座高登 法服 座高登  
 法服 座高登 法服 座高登  
 法服 座高登 法服 座高登  
 法服 座高登 法服 座高登



佛は法を説き其の相承は信者老  
 師業中其の用は信者老  
 師業中其の用は信者老  
 師業中其の用は信者老  
 師業中其の用は信者老  
 師業中其の用は信者老  
 師業中其の用は信者老  
 師業中其の用は信者老  
 師業中其の用は信者老  
 師業中其の用は信者老  
 師業中其の用は信者老

庄  
 川

言

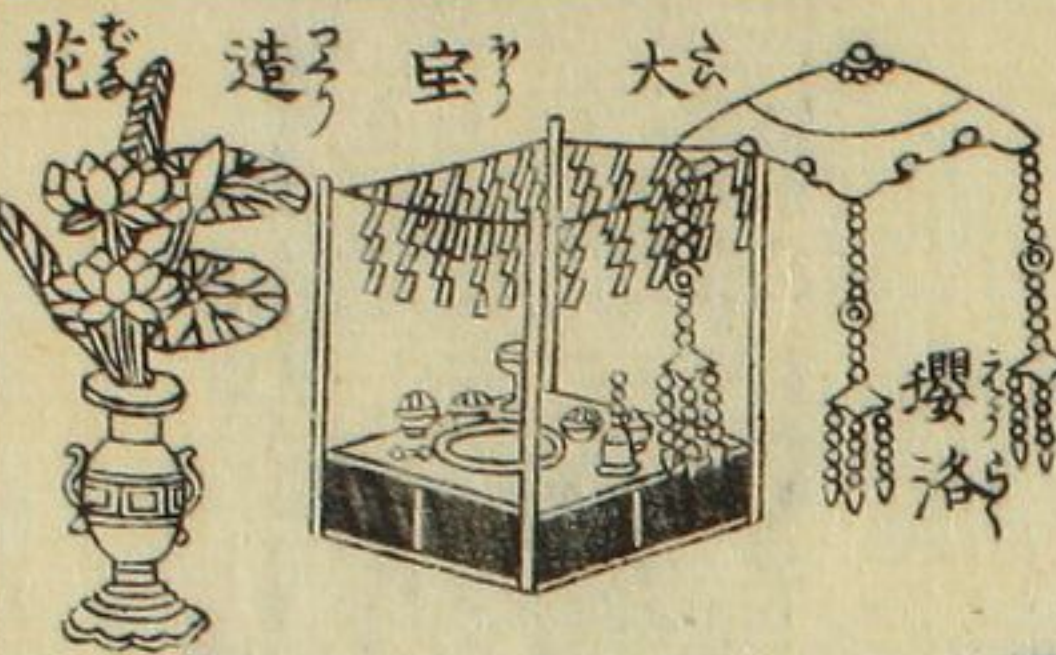
舞童

伶人



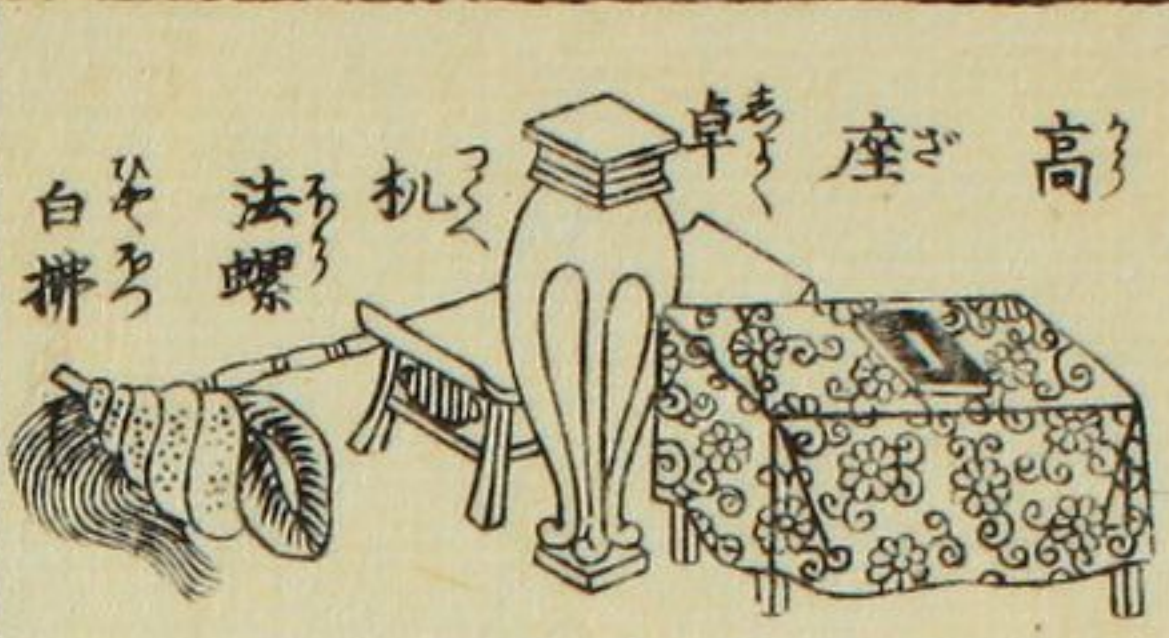
抄の儀の抄を抄す  
抄の儀の抄を抄す  
抄の儀の抄を抄す  
抄の儀の抄を抄す  
抄の儀の抄を抄す  
抄の儀の抄を抄す  
抄の儀の抄を抄す  
抄の儀の抄を抄す  
抄の儀の抄を抄す  
抄の儀の抄を抄す

倭若長老兼典法沙汰人每  
戒令除障者兼道志者檢校  
新納者兼學頭兼院主執  
事之兼法部法橋條所備都  
法備心員仗人勅進別當海  
兼内侍兼之備兼其師兼當



のほろろのきりぎりす  
のほろろのきりぎりす  
のほろろのきりぎりす  
のほろろのきりぎりす  
のほろろのきりぎりす  
のほろろのきりぎりす  
のほろろのきりぎりす  
のほろろのきりぎりす  
のほろろのきりぎりす  
のほろろのきりぎりす

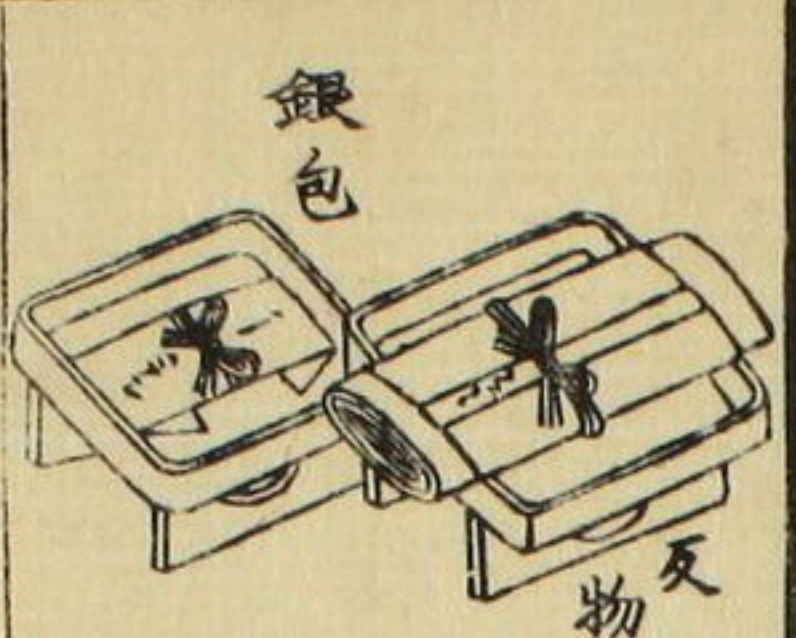
實の維新もまに有れば必は其  
其外も兼備備備備備備備  
相備備備備備備備備備備  
道法法僧疑便因難推志力備  
内室室室室室室室室室室  
備備備備備備備備備備



後乃納物不納物...  
 〇本表新種...  
 〇備...  
 〇自...  
 〇自...

言

美母孝深... 朕... 監守...  
 進上 衣鮮伯老福所也察



法社元候...  
 〇自...  
 〇自...

法社元候... 御... 〇自... 〇自...

言

四







烏羊 覆盆子 百合  
 田島之天竺草也 ○ 藤原  
 三葉草也 ○ 根葉ののり  
 本云 ○ 百合草也 ○ 根葉  
 甜く ○ 百合病を治す  
 効 ○ 腫脹病を治す  
 喉を清くす ○ 出病  
 惟 ○ 病氣を治す  
 万病 ○ 醫治 ○ 醫治  
 けて此の効

葯効女子酸業切其清納量  
 且茶法園官身其款為能海  
 布青若神鳥深遠本甘若塔  
 酒美秘算集新唐茶葉飲研才  
 引家然浮葉女子若日為獨葉  
 串柿醜梅干車老葉茶氏以推



せやくん一せつ せん云  
 種善院作阮小釋券  
 孤獨のよまむは若文天  
 一さの非人も食やむ  
 一の病へ至責難而深  
 衣衣持持美院公事を  
 として病者を扱ひふ  
 とを診察病を治す  
 かくり眼平 ○ 樹活  
 中風よりなり

葯効為子復家身百合葉酸  
 子防内也之用請暇病眼察  
 明滑眼備危定清出安身道  
 下飲楚人料送送至云為老  
 少味後復也粗力之巨細合  
 相得耐下中世之後之



禁煙の年むすたと  
 も禁煙の好む病  
 氣より禁煙を金  
 とる金物とまたた  
 痛病より禁煙を金  
 禁煙の好む病  
 金禁煙の好む病  
 ろたると難い蘭  
 病を生い漸後の  
 淋病せむる病



十日日

夜録某

監守

世間病再数天  
 氣腹病虚  
 勞未盡致重  
 為腰深矣  
 汗流  
 相舞臂骨  
 任數業  
 所書  
 之間  
 見身  
 以和  
 年丹  
 以曲  
 業實  
 症

余の病作小毒満と云  
 来梅柳柳葉松(食)  
 葛蒲菖蒲車前杜仲茯苓  
 枸杞白朮芍薬甘草  
 ○房内之る房を相と  
 小なり瘧のなるを  
 在云○湯湯煎煎  
 去去○脂眠房洗ハ  
 脂眠れむく(洗洗  
 む)○竹葉煎煎の候  
 仍強健候動教丸  
 動(他湯の候)○  
 不他事(其他の房)○  
 不他事(房)○  
 不他事(房)○  
 不他事(房)○

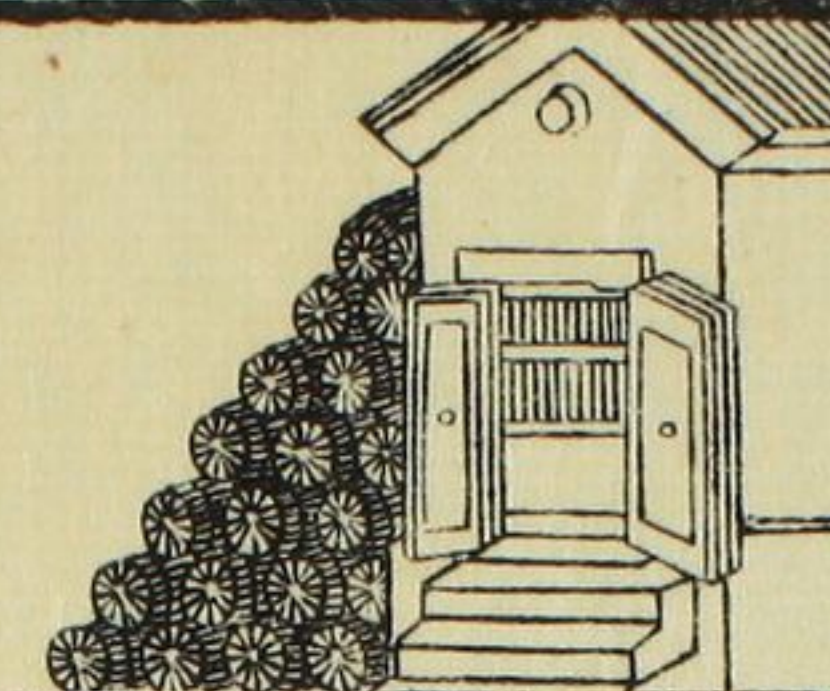
身は熱熱院察直徳仁弁被  
 来其以針洗湯洗淋洗養生  
 生と以針洗湯洗淋洗養生  
 中風上氣乾風寒劑亦劑因府  
 内腫行腫物腫病候病腹腫候  
 去去教見知候病候病傷候











世にせんてんかん  
社本堂前を納むる  
土壁のまのまに  
公室のまのまに  
納むるまのまに  
納むるまのまに  
納むるまのまに  
納むるまのまに  
納むるまのまに  
納むるまのまに

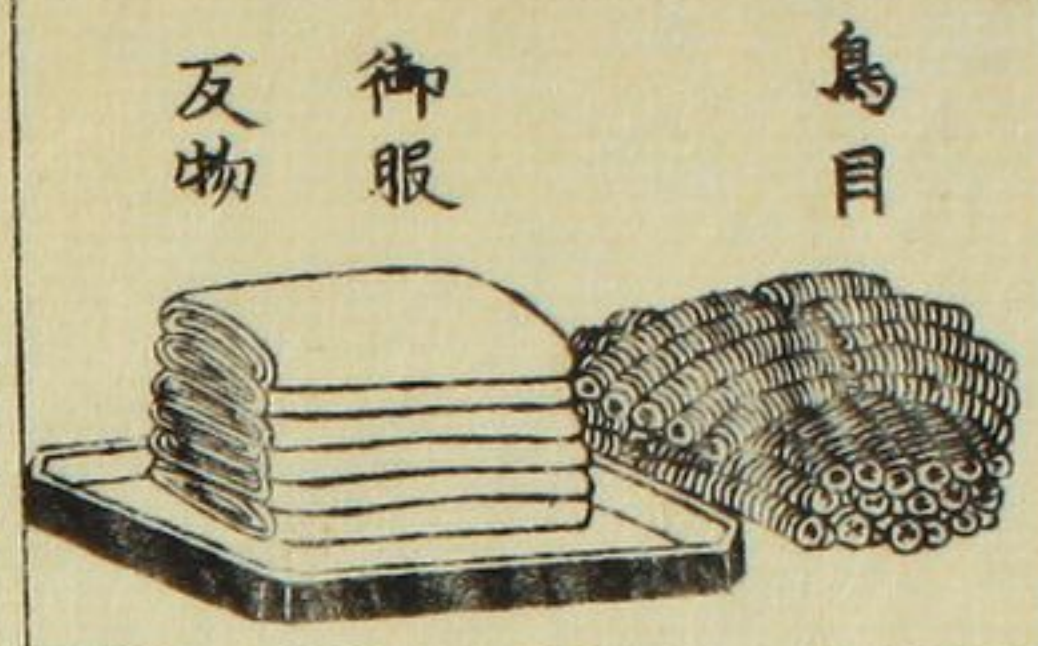
納むるまのまに  
納むるまのまに  
納むるまのまに  
納むるまのまに  
納むるまのまに  
納むるまのまに  
納むるまのまに  
納むるまのまに  
納むるまのまに  
納むるまのまに  
納むるまのまに  
納むるまのまに

三言

夕夜あきかね  
室事あきかね  
守見礼あきかね  
冬月あきかね  
宛冬あきかね  
疎暖あきかね

夕夜あきかね  
室事あきかね  
守見礼あきかね  
冬月あきかね  
宛冬あきかね  
疎暖あきかね  
納むるまのまに  
納むるまのまに  
納むるまのまに  
納むるまのまに  
納むるまのまに  
納むるまのまに  
納むるまのまに  
納むるまのまに  
納むるまのまに  
納むるまのまに  
納むるまのまに  
納むるまのまに

三言



鳥目  
御服  
反物  
鳥目とは、鳥の目の如き文様の物をいふ。御服とは、御用ひの衣類の事をいふ。反物とは、裏地に文様の物をいふ。此の三つは、皆、御用ひの物に用ひらるるものなり。

武高徳法利潤芳若重至義徳之郷  
保貴貞現利巨善若芳兼任雅玄  
一重清親執業兼治為松兼徳西任  
初後日如之禮之  
十二月旨 越前守殿  
進上集人佐殿

諸國  
書肆

出羽山形十日町	同 米沢立町	奥州三春町	同 野州宇都宮傳馬町	下 総 成 田	下 総 古河江戸町	同 常州土浦中城町	同 同 同 同	同 上州高寄田町	武州深谷宿	同 熊ヶ谷宿	同 門前	甲府八日町一丁目	上 総 木更津	江戸馬喰町三丁目
高田	素碓	紙井	松井	菊池	正池	大文	近國	寺田	寺田	小野	近浦	藤平	鴻右	森治
屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋
晨	傳	善	利	茂	儀	利	弥	利	新	清	源	徭	平	平
二														
郎	吾	吉	門	助	助	助	助	助	衛	衛	造	門	門	板

